

1 聖心幼稚園の教育目標

- (1) 規則正しい生活習慣を身につけ、健康な心と体を育成する。
- (2) 知育・徳育・体育を重視した教育活動を通して、個性を伸ばし、創造性を高める。
- (3) 自己創造と個性開花を目指す、生き生きとした幼児教育をすすめる。

2 平成29年度の重点目標と具体的な計画

- (1) 身近な人々や自然・動植物との関わりやふれあい、絵本の読み聞かせ等を通して、豊かな人間性を育てる。
- ・ 自然環境を生かし、年間を通して身近な草花や生き物にふれることで、自然の素晴らしさに気づかせる。
 - ・ なかまと遊ぶことを通して、他の園児との関わり方を学び、一緒に遊ぶことの楽しさを感じさせる。
 - ・ 年間を通して絵本の読み聞かせを行い、創造力を豊かにさせる。
- (2) 「特別指導」で園児の興味や関心を引き出し、表現力や個々の能力を高める日々の活動を通して、「学びの基礎」を身につける。
- 英 会 話…楽しいアクティビティを通して、自然に英会話に慣れ親しむ。
 - 絵画・造形…美的感性や創造力を育み、進んで表現する。
 - 音 楽…楽しく歌を歌ったり、楽器を演奏したりして音感とリズム感を養う。
 - 体 育…いろいろな体の動きを経験し、楽しく基礎体力をつくる。
 - 習 字…日本文化に親しみ、鉛筆や筆の正しい持ち方、書き方を学ぶ。

3 評価項目の達成状況

評価項目	評価	評価所見
あいさつ・返事	B	正しい習慣が身についてきているが、自分から進んであいさつできる園児はまだまだ少ない。また、「はい」と元気よく返事ができるように、繰り返し声かけをしていくことが必要である。
衣服の着脱・整頓	B	毎日の繰り返しで、園児は衣服の脱ぎ着ができるようになってきている。3年保育の初年度は時間がかかるが、それが年中・年長に生きている。整頓については、自分からできるように意識付ける工夫をしていく必要がある。
話を聞く	B	話を聞くことの大切さを絶えず意識付けしているが、話の途中で集中力が無くなり、最後まで聞けなくなることがある。話を聞く姿勢やしつかりと目を見て聞くことを引き続き、継続指導していくことが必要である。

自己発言・表現	A	どのクラスも少人数クラスで、自分の思っていることが言いやすい雰囲気があるため、自分から伝えてみようとする意識が芽生えてきている。担任も自己表現しやすい環境づくりを心がけ、絶えず適切な声かけを繰り返している。
思いやり	A	バス待ちの時間など、異学年の園児と一緒に遊ぶ時間が毎日あるため、お互いに顔や名前を知っている関係ができてきている。上位学年の園児は下位学年の園児に対して、優しく関わったり、協力して遊んだりしている様子をよく見かける。

★評価項目の評価基準

A	十分に達成されている。
B	達成されている。
C	取り組まれているが、成果が十分ではない。
D	取組が不十分である。

4 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
表現力を高める指導の工夫	良いものを見て「まねる」ことから、次は自分なりの工夫をして表現することの楽しさを味わわせる。特別指導だけでなく、日常活動で自分の思ったことや考えたことなどをみんなの前で表現できるように担任がサポートする。
コミュニケーション力の育成	幼稚園に入園して、初めて集団活動をする園児は遊びを通して人との関わり方を学んでいく。自ら学んでいける場合もあれば、人との距離感が分からず、絶えずトラブルを起こしてしまう場合もある。どのように相手に言えば良いのか、関われば良いのかを担任がモデルとなり、自分を振り返らせることを大切にしていく。
思いやる心の育成	自分の気持ちを出せることは大切であるが、自分のまわりにいる子の気持ちに気づくことも大切である。相手の良いところに気づき、相手の気持ちを受け入れられる子に育てたい。そのためにも、今、自分の気持ちはどうなのか、相手の気持ちはどうなのかということを意識できるような声かけを繰り返していく。親への感謝の気持ちも持たせるように工夫する。
話を聞くことができる園児の育成	話をしっかりと聞くことの大切さに気づかせるとともに、指導者がこどもの興味や関心を引き出すような内容や話し方を工夫する。先生が話すときだけでなく、お友だちが話すときにもしっかりと目を見て話を聞かせる。朝会や絵本の読み聞かせなど、それを意識付ける場を工夫する。

<p>特別指導の工夫と改善</p>	<p>園児が意欲的に取り組める内容になっているか、発達段階に合っているのかなど、振り返り、チェックすることが大切である。長年、同じ指導者である場合はマンネリ化しないように職員からの声も知らせていくことが必要である。当園の特色ある教育活動である特別指導を園児の可能性を伸ばし、保護者からの評価も高いものにしていく。</p>
-------------------	--

5 総合的な評価所見

<p>当園の特色である少人数指導を生かして、各担任の配慮と支援が行き届いていることから、各園児の発達段階に応じた順調な成長を見ることができている。「幼稚園が楽しい」、「幼稚園に行くのが楽しみだ」という園児の様子を通して、保護者からの厚い信頼を得られているように思う。</p> <p>各園児はそれぞれ成長の度合いに個性があることを踏まえ、園児にとってより良い環境を整え、一人ひとりを大切にしたい、粘り強い指導を積み重ねることが必要である。また今後、数年先の小学校入学を見据えて、「どのような子に育てるのか」を職員が共通認識して、日々の指導を継続していくことが求められている。</p> <p>特色ある教育活動である「特別指導」については、発達段階を踏まえた一年間の適切な指導を継続することで、学ぶことが楽しいという園児を増やすことができている。しかし、マンネリ化している面も見られるため、それぞれが行ってきた指導内容や年間カリキュラムをチェックし、より良い特別指導になるように工夫する必要がある。授業の参観を繰り返し、指導者との面談を通して、指導方法の工夫改善に取り組む必要がある。</p> <p>今後も全ての教育活動を通じて、より良い生活習慣を身につけ、個性を伸ばし、創造性を高める、生き生きとした幼児教育を進めていきたい。</p>
